

# 中学生に対する教師の言葉かけと理想の教師イメージの関連の検討

○青島拓紀(横浜国立大学大学院)

宮戸美樹(横浜国立大学)

キーワード: 学習動機づけ, 教師の言葉かけ, 理想の教師イメージ

## 問題と目的

児童生徒の学習動機づけに影響を与える要因として、教師の言葉かけに着目した研究が近年になって多く行われている。たとえば秋田(1996)は、理想の教師イメージが言葉かけをはじめとした教師の指導に影響することを明らかにしている。しかし、個人の持つ教師イメージが、言葉かけにどのように影響を与えるかについては、これまでに検討されていない。そこで本研究では、中学生の失敗場面における教師の言葉かけに着目し、どのような言葉かけが行われているかを検討する。また、教師の言葉かけが、理想の教師イメージとどのような関連を持つかについても検討を行う。

## 予備調査

### 調査参加者

首都圏の公立中学校に通う中学生 1~3 年生 21 名(男子 14 名, 女子 7 名, 平均年齢 14.0 歳), 首都圏の公立中学校で働く教員 7 名(男性 3 名, 女性 4 名, 平均年齢 33.0 歳, 平均教師歴 9.3 年)。

### 調査内容

中学生, 教師の双方に, 生徒の失敗場面における教師の言葉かけについて, 自由記述形式で回答を求め, 全部で 84 件の回答が得られた。

## 本調査

### 調査参加者

首都圏の教員養成課程に所属する大学 1~4 年生 186 名(男性 72 名, 女性 114 名, 平均年齢 19.5 歳)。

### 調査内容

**教師の言葉かけ尺度** 予備調査で得られた回答を KJ 法で分類した後, 31 項目からなる尺度を作成し, 生徒の失敗場面における教師の言葉かけについて測定を行った。回答は 4 件法で求めた。

**教師イメージ尺度** 三島(2009)によって作成され

た尺度を用いて, 5 件法で回答を求めた。

## 結果

**因子分析** 教師の言葉かけ尺度について因子分析(主因子法・プロマックス回転)を行った結果, 固有値は 4.52, 3.68, 1.69, 1.60...であり, 因子の解釈可能性から 4 因子 22 項目が採用された。第 1 因子は「いまいちだったね」などの項目が高い負荷を示したことから「マイナス」, 第 2 因子は「また次に向けて頑張ろう」などが高い負荷を示したことから「プラス」, 第 3 因子は「何も言わない」などが高い負荷を示したことから「触れない」, 第 4 因子は「今回の頑張りをまた続けてみて」などが高い負荷を示したことから「努力の継続」と命名した。

**偏相関分析** 教師イメージ尺度のすべての下位尺度間について因子間相関がみられたことから, 教師の言葉かけ尺度との関連を検討する際には, 偏相関係数を算出した。その結果, 「プラス」の言葉かけは, 「努力家」以外の教師イメージと, 「努力の継続」の言葉かけは「サポーター」と 1%水準で有意な正の相関を示した(Table 1)。

## 考察

まず, 生徒の失敗場面における教師の言葉かけについて, 先行研究には見られなかった「触れない」という因子が得られた。そのため, 教師はあえて言葉をかけないという行動をすることもあるといえる。また, 理想の教師イメージのうち, 生徒を先導するリーダーのような教師や, 知識豊富で頼れる教師のイメージが高いと, 特定の言葉かけをより多く使用することが明らかとなり, 理想の教師イメージの一部が指導だけではなく, 言葉かけにも影響を与える可能性が示唆された。しかし, 教師の言葉かけに影響を与える要因には, 理想の教師イメージ以外にもあると考えられることから, 今後はより多様な変数を扱う必要がある。

Table 1 教師の言葉かけと理想の教師イメージの偏相関分析 ( $n = 171$ )

|       | パフォーマー | リーダー  | 権力者   | サポーター | 努力家   |
|-------|--------|-------|-------|-------|-------|
| マイナス  | -.03   | .09   | .14** | -.03  | -.12  |
| プラス   | .07**  | .24** | -.20  | .22** | -.09* |
| 触れない  | .17**  | -.21  | .01*  | .00   | .16   |
| 努力の継続 | .02    | -.08* | -.09* | .20** | .08*  |

\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$